
開演前に(戯曲)

びる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

開演前に（戯曲）

【Nコード】

N5428J

【作者名】

びる

【あらすじ】

戯曲です。

まずは小手調べ（？）に書いてみました。
15分くらいを想定して書いてみました。
お暇なら読んでください！

（前書き）

戯曲です！短いのでぜひ読んで感想ください。

登場人物

男： 大学1年生。演劇学専攻。伝統演劇が好き。

女： 男と同じ大学1年生。演劇学専攻（男と同じクラス）。現代演劇が好き。

イスが客席に向けていくつか並べられている。

その真ん中2つに男女が隣り合わせで座っている。

（暗いまま）

男 気になることがあるんだ。

女 なに？

男 舞台ってなんなんだろうね？

女 なるほど？

男 舞台って何なんだろう？

女 え？

男 あそのの上ってただの板の上だろ？

女 まあそうだよな。

男 でも演じる人たちはそこが日常の1コマを切り取ってきたようにみせるわけだろ？

女 うん。

男 それおかしくない？

女 うーん。

男 ただの板の上ならただの板の上のままでいいじゃん？

女 どうかしら？

男 あの上を誰かの家とかどこかの公園とかにみせる必要ないんじゃない？

女 それじゃ演劇じゃないよ。

男 でもそういうコンセプトの演劇はあるよ。
女 例えば？

男 歌舞伎とか。

女 現代演劇では？

男 俺現代演劇のこと分かんないもん。

女 20世紀になったら俳優がリアルを表現する演劇が一般的になったの。

男 リアルって？

女 演技とかも含めて。

男 演技？

女 そう。演技。

男 舞台上で泣いたりするやつか。

女 それだけじゃないけどね。そういうこと。

男 あれどうにかならないの？

女 どうにか、って？

男 悲しい場面ときに俳優が泣くの。

女 それが現代演劇だからね。

男 ああいうのってチープだよな。

女 そうかな？すごい演技力だと思うよ、実際に泣くのは。

男 うーん。

女 嘘だと思っならいま泣いて見せてよ。

男 男は女の前じゃ泣かない生き物だぜ。

(間)

男 ごめん。

女 ゆるす。

男 まあドラマとかで俳優が泣いてるのを見るとなんだかなあ、って思うよ。

女 だから、なんでさ。

男 見る側は「ウソ」だって分かってるから。

女 むしろ「ウソ」だから実際に泣かなきゃなんじゃない？

男　なんで？

女　なんでも。

男　求む、説明。

女　その人の感情って表現されなきゃ分かんないでしょ？

例えばあなたがいま胸にある感情って私にはちつとも分かんないの、何かで私に伝え

てくれなきゃね。

同じように私の胸の内もあなたにはわからないはずなの。

日常でもそうなんだからウソの世界じゃなおさらでしょ？

男　でも「泣く」ってのは大げさなんじゃないかな？

女の子は涙は武器かもしれないけど

女　そんなことないけど。

男　かもしれないけど、男なんて人前でそんなに泣くもんじゃな
いぜ、少なくとも俺は。

この前泣いたのなんておとといだよ。

女　ずいぶん最近ね。

男　歯が痛かったんだ。

女　むしろそれくらいで泣くかね？

男　いや、痛いじゃん。あれ。

女　私歯医者行ったことないからわかんないけど。

男　顔が悪い分、歯はいいんだな。

女　失礼な。

男　あ、ごめん。目もいいな。

女　そうですね。

（間）

男　まあつまりだね、おとといの前に泣いたのはずっと前なんだ。
女　いつくらい？

男　その1週間くらい前。

女　…ずいぶん泣いてるね。

男　歯医者が…

女 歯医者かーい。

(やや長い間)

男 いまのツッコミひどくね？

(間)

男 気になることがあるんだ。

女 なに？

男 さっきの話の続きなんだけど

女 うん。

男 だから、舞台上で泣くのってどうなの？ってこと。

女 泣くのが全体的にいいってわけじゃないけど、悲しい演技をするべきだよ、観客に分か

らないもん。

男 でも観客はそういう演技を大げさって見て白けるんだぜ。

女 普通の人はそうじゃないよ。

男 歌舞伎じゃ絶対俳優は泣かないぜ。泣き真似はするけど。

女 でも泣くような演技するんじゃない？

男 ミエを切りながらね。つまりこれはウソです、って観客にアピールしてるんだよ。

女 そんな演技の途中にミエなんか切られたら見てる方は白けちゃわない？

男 歌舞伎ってそういうもんだからね。

女 なんかストーリーをおえなくなっちゃいそう。

男 「なっちゃいそう」って君は歌舞伎を見たことがないのか？

女 高校のときに学年で見に行ったよ。
ずっと寝てたけど。

男 情けない。

女 そういうあなたも今日が演劇みるの初めてでしょ？
男 うん。

で、わからないからさっきからいろいろ聞いてるんじゃないか。

女 そうだったね。

（間）

男 で、舞台上で泣くのは必要なの？

女 しつこい男って、キライ。

男 オトコはしつこいもんだぜ、ベイベ―。

（間）

女 ……恥ずかしくない？

男 ごめん。

女 恥ずかしいからやめてください。

男 頼むんなら頭下げろよ！

（やや長い間）

男 でもこの中暖かいな。

女 駅からここまで寒かったから余計、ね。

男 駅からって言うても5分くらいしか歩いてないけどね。

女 でも今日は寒かったじゃん。

男 まあこの時期だからしかたないよね。

てかなんでこんな夜になってからやるんだろう。

昼間やればいいじゃん。都内からウチに帰るまで何時間かか
ると思ってるんだろう。

本当に客のこと考えてないよな。

女 そんなことないよ。

昼間は仕事とかで見に来られない人が多いんだよ。

歌舞伎なんかは、ご年配の、人たちが、みるから、昼間公演
のが、良いかも、しれな
いけど、ね。

男 「なんか」っていうなや。

女 でもいまの若い人で歌舞伎見てる人あまりいないよ？

男 俺もあんまりみに行かないけどね。

女 もっ…分かんない…

男 歌舞伎はなあ、高いんだよ、ちゃんと見ると。だからめった

に行けないの。

女 その点お芝居は安いからいいわよね。

男 でも内容が伴わなきゃ……

女 すばらしいよ、感動するよ、ちゃんと見てなね。

男 感動ねえ……感動する必要があるんだろうか？

女 じゃあなんでお芝居みるの？みんな。

男 わかんないけど。

女 じゃあそんなこといわないの。

男 わかんないけど、非日常をみせるんじゃないかな？

女 だから演技も非日常でいいんじゃないかな？

男 まあ、まとめるとそういうことだね？

女 でも泣くのは非日常なんですよ？

男 なんて？

女 だって悲しみの表現って泣くだけじゃないんですよ？

男 はそんなに泣かないんですよ？

でも俳優さんは悲しいときには涙を見せるわけですよ？

じゃリアルな演技じゃないじゃん。

何か間違ってる？

男 間違ってる……けどやっぱり納得いかない。

女 それはまたどうして？

男 説明すると長くなる。

女 簡潔にお願いします。

男 それは難しい提案ですな。

女 出来ることをみこんでお願いしてるの。

男 そんな風に見られてるとは……ありがたい。

でもそんなに能力のある者じゃないんです。

女 なんでもいいけど、説明してよ。

男 何を？

女 なんて納得いかないか。

男 ああ、そうか。

女 簡潔にね？もうお芝居始まっちゃうから。

（やや長い間）

女 どうしたの？

男 簡潔につて意外と難しいな。

女 つてかもう始まるのか？

女 ええ、じきに。

男 そうか、じゃあ支度をしなきゃ。

男、去る。

女、時間をつぶす。

（１分間ほどの長い間）

男、イスにぶつかり「痛い」などといいながら戻ってくる。

男 おつ、失礼。

いやーミタライきれいだったよ。

女 ミタライって。

男 てかずいぶん人、来てるんだな。

女 けっこう広いハコだからね。

男 「ハコ」とか通ぶつた言い方するなよ。

女 だつて通だもん。

（間）

男 うん、なんなの？ナルなの？

女 ごめんなさい。

男 許さん。

女 許してください。

男 君にねー、つき合っている暇はないんだ。

女 なにそれ、ひどい。

男 ごめん。

女 許す。

（間）

男 んでさっきのだけど。

女 え？

男 簡潔に、つての。

女 ああ、なに？

男 簡潔に、つて難しいな。

女 それさつき聞いた。

男 ちよつと席外した時に考えてたんだ。やっぱり難しいなーつて。

女 まとめるのにも技術がいるのよね。

男 「まとめる力」！

女 そんな本ありそうね。

男 んでまとめてみたんだ。

女 本を？

男 引っ越しか！

女 売りに行くつて可能性もあるよ。

男 売らないよ。ついでに言つとくと、捨てもしない。本じゃないから。

君が言つたんだろ？簡潔にまとめて、つて。

女 で、どうなったの？

男 君はさつき、泣くのは非日常つて言つたよね？

女 確か。

男 それはそうなんだけど…

じゃあその涙はウソの涙なの？

女 そういうことになるんじゃないかしら？

男 ほんとに泣いてるのに？

女 そうね、演技つてそもそもウソだからね。

男 じゃあウソっぽく演技したら？

確かに泣くつてのは非日常的だろうけど、なんていうか、紛らわしいんだよね。

それなら歌舞伎のミエみたいに、完全にこれはウソです、つていうような演技をすれ

ばいいんじゃないかな？観客は娯楽のために芝居とかを見に

来ているわけで、泣きに

来ているわけじゃないでしょ？

女 それは人によって違うんじゃない？

とにかくあなたのいう「演技」ってのはレベルの低い演技なの。

いや、まって、聞いて。

少なくとも、現代演劇の世界じゃね、レベルの高い演技が求められてるの、観客が

らお金をもらう以上は。

何度も言うけど、演技ってしょせんウソよ。人間ってウソかマコトかを見破る能力が

あるらしいの。

レベルの低いウソだと、ウソってわかってるから登場人物に共感できないの。

レベルの高いウソだと、ウソって分かってても共感できるの。だから俳優はレベルの高い演技をしなくちゃなの。

だから、リアリティーのあるウソを追い求めなきゃなんじゃないかな？

私が高校で演劇やっていたときはそんな感じだった…と思うよ。

男 思いつて？

女 演じる時にはそんなこと考えてないよ。

男 そうか。

まあ、共感する、しないって言うていたけど、共感するのは必要なのかな？

登場人物はその劇によって違うかもしれないけど、その全員に共感するのっておかし

くない？見てる方は一人なのに。主演の人に共感すればいいの？なんだかなー。

女 でも演劇ってそんなもんじゃないのかな？

考えればいいの！

男 僕らがそうじゃないか。

女 ああ、そうね。

(間)

男 なに？いまの。天然系のアピール？

女 ごめん。

男 認めるんですね？その顔で。

女 顔は余計じゃ。

男 女の子みたいにかわいこぶってもだめだぜ。

女 だって、女の子だもん。

(間)

男 なんなの？さつきから？

女 だって楽しみなんだもん。

男 何が？

女 お芝居。

男 もう絶対君と来ないから。

(間)

男 なに、いまの間。俺が変なこと言っただけじゃん。

女 …

男 なんか言おうぜ。

(ブザーの音)

男 ん？

女 いよいよね。

男 始まるのか？

女 まだあと数分ね。

男 なんかこのドキドキする感じがいいよね。

女 よくみんなそういうよね。

(間)

男 で、さっきのは？

女 なんだっけ？

男 演じるのの内面とかそんな話。

女 うん、なんだっけ？

男 だーからー、演じる内面がわかんなかったら？って。神とか仏とか。

女 まあなんにせよ、限界ってあるよね。

男 なんだそれ？

女 いくらウソだからって、悲しい場面で高らかに笑ったら、見てる人たちをおいてけぼ

りのお芝居になっちゃうでしょ？もっともそれはお芝居とは言わないかもしれないけど。

男 なるほど、そりゃそうだ。

女 まあね、とにかくね、楽しめばいいんですよ。

男 そんなもんかねえ？

女 そういうのを考えるのも大切だけど。

男 どっちなんだよ。

女 じゃあ、まずは楽しんでみて、それから。

男 逆じゃダメなの？

女 知らない。

男 丸投げですか？

女 そういうことはまた今度話そうよ。

（間）

男 気になることがあるんだけど。

女 なに？

男 いつ始まるの？

女 知らないよ、そろそろでしょ？

男 てかなんですつと暗いままなの？

女 そういう趣向なんでしょ？作者が。

男 これじゃみなさんに僕らの顔がみれないよね？

女 作者がこういうの作るのに慣れてないから仕方ないんじゃないかな

いの？

男 てかさつきミタライ行く時大変だった。

女 暗いから？

男 そう。

女 本当に役者無視ね。

男 ひどいもんなよな。

（急に明るくなる）

女 準備ができたみたいよ。

男 明るくなったね。

女 これで見なさんに私の顔のひどさがやっとわかったわね…っ
ておい！

男 …

女 ごめん…舞い上がってるの…

男 誰が出てきた。

女 芝居がはじまるのね。

男 静かにしようか。

女 そうね。

（急に暗転）

—幕—

(後書き)

ありがとうございます！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5428j/>

開演前に(戯曲)

2010年10月19日03時17分発行